

ひとと空間を科学する



明けましておめでとうございます。
住居学科の皆様のご健康とご活躍をお祈りします。

住居学科 教員・スタッフ一同
2015.1.1

topic
1

ベトナムで開催された学会で発表！ The International Symposium on City Planning in Vietnam

修士2年に在籍中の泉水さんが、ベトナムで開催された都市計画の国際シンポジウム（日本都市計画学会ほか、台湾、韓国等が参加）で、これまで行ってきた雑司が谷の住宅と路地の関係についての調査結果を発表しました。Abstract審査に合格をしてポスター発表をする機会を得られ、1時間以上に及ぶポスター発表の時間、アジアの都市空間に関心を持つ研究者と交流することができました。路地のあるまちを潰した開発計画がどんどん進むアジアの国々の都市計画家に対して、路地を見直すことの良さを伝えました。



会場に展示されたポスターの前で。

これまで日本、台湾、韓国の3か国が持ち回りで行っていましたが、初めてベトナムの都市計画協会（Vietnam Urban Planning and Development Association）が主催。例年になく応募が多い中、審査に合格して得られた発表の機会でした。皆さんも大学院生になったら、是非海外で開催される学会での発表にも挑戦してください。日本で得られるコメントとは異なる視点での質問・意見交換ができます。

なお、今回は大学の特別重点化資金を使って渡航させていただきました。



海外の研究者と、意見を交わしました。

福島県いわき市豊間地区に “とよマルシェ” がオープン

津波で甚大な被害を受けた豊間地区に、住民による仮設商店がオープンしました。
サーフィン好きの集う、波の素晴らしい海岸です。
仮設宿泊施設もあります。おいしい料理も食べられます。
春休みに、遊びにいいませんか？

詳細は“ふるさと豊間復興協議会” ホームページ <http://furusato-toyoma.jp/> をご覧ください。
葉袋研も復興まちづくりのお手伝いしています。





立派な防潮堤のあった地区ですが、低地の住宅は全て破壊されました。低地には公園ができる予定です。

岩手県釜石市にある小さな漁村、唐丹町小白浜地区の復興まちづくり計画を考えるためのワークショップのお手伝いを葉袋研で始めて3年経ちました。被災地は非常に広く、復興のための取り組みのスピードにもかなり差があります。また高台移転や区画整理等の土木工事は進んでも、まちをどう生活空間として使いこなせるようにするのか、どのように元気な活気あるまちにするのかという話し合いについては、十分に時間をかけられていない地区が多いのが現状です。

今回は、2014年11月18日に開催。真鶴の“美の条例”等を紹介しながら、小白浜らしい生活空間・生活行為について考えようという話題提供をした後、具体的にどんな場所を大切にしたい居住地再建を考えたいのかの意見交換を行いました。新たに低地部にできる公園への車のアクセスと居住者の生活環境との関係等について熱い議論が交わされました。

住居学科の大学院生三浦さん・卒業生の立石さんもお手伝いに参加。事前アンケートのまとめや、ワークショップ準備等お手伝いをしました。美味しい地元の食材を晩御飯にいただき、とても充実した食生活！主催組織（建築基本法制定準備会）の専門家の先生方は勿論、地域の外から若い人が手伝いに来てくれていると地元住民の方も大変喜んでくださいました。



アンケート結果を地図にまとめました。

雑司ヶ谷の活動が 日本ユネスコ協会より“未来遺産”に！

キャンパスの北側に広がる雑司ヶ谷のまちで取り組まれている「雑司ヶ谷がやがや」プロジェクト～歴史と文化のまちづくりが、第6回プロジェクト未来遺産に認定されました。

ユネスコ日本協会では、“地域の豊かな自然や文化を100年後の子どもたちに残すために、毎年、地域の市民団体が取り組む活動を『プロジェクト未来遺産』として登録”する活動を行っています。今年は50団体ほどの応募があったとのことですが、その中の3団体が登録を受けることになりました。

勿論、住居学科の皆さんの活動（冊子“ぞうしがやがやたんけん”の発行、豊島区からの助成団体“わいわいぞうしがや”の活動、その他研究や設計の提案）も審査員の方には紹介されました。大学が地域と連携して教育・研究を行っていることも、選定を受けるための大切な要素だったようです。

住居学科の皆さんの活躍は、地域からも温かく受け入れていただいています。これから色々な勉強をさせてもらえる場、またこの目白キャンパスのキャンパスライフを充実させるための場としても、雑司ヶ谷を大切にしたいですね。



雑司ヶ谷の魅力をもとめた冊子、「ぞうしがやがやたんけん」



雑司ヶ谷の町を歩きながら、審査員の質問に答える住居学科の学生